

生活環境学部

環境デザイン学科

No.	テーマ	内容	教員名
60	紙を折って考える洋服の形	私たちが着ている洋服は、平らな布からできています。私たちの体をよく見ると、球や円柱や円錐では表せない、でこぼこしたとても複雑な形をしています。そのような体の形をどうすれば平らな布で覆うことができるか、紙を折って作った形から考えてみましょう。	伊藤 海織
61	たのしい空き家の活かし方	まちなかを見渡せば、空き家や空き店舗が数多くあります。しかし、空き家があることはネガティブな面ばかりではなく、上手に活用することで生まれ変わり、まちの資産にもなります。この授業では、空き家が生じる仕組み、空き家が与える地域への影響、空き家活用の実践例を紹介します。そして、自分たちのまちのなかの空き家を取り上げ、どんな活用方法が可能か、みんなで考えます。	加藤 悠介
62	建物のかたち	建物のかたちはどのように決まっているのでしょうか。設計者が絵を描くように自由にかたちを決めているように感じるかもしれません。もちろんそういう部分もあります。ただ、建物の強さを考える構造という分野や、人々の快適さを考える設備の分野もかたちを決めるのに一役買っています。授業では、建物のかたちの決めり方を解説していきます。	白川 在
63	人と環境にやさしい繊維のはなし	とうもろこしを由来とする繊維、竹やバナナの茎からできた繊維など、人と環境にやさしい様々な繊維に触れながら、持続可能な社会に求められる衣服のあり方を考えます。	長嶋 直子
64	コンクリートのカーボンニュートラル化は本当に可能か？	SDGsを含む低炭素社会を目指した取組みが強化され、政府は2050年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにすること「カーボンニュートラル」を宣言しています。コンクリートの主原料であるセメントは、生産過程で多くのCO2を排出（世界全体のCO2排出量の約8%）しています。コンクリートのCO2削減策としてのCO2回収・有効利用について解説します。	朴 相俊
65	太陽光パネルの大量廃棄時代がやってくる。リサイクルは可能か？	太陽光パネルは寿命があることを知っていますか。国内の太陽光発電施設の設置は、固定価格買取制度（FIT）が始まった2012年以降に急増しました。今後、FITの順次終了や太陽電池モジュールの寿命により、2030年代後半には年間約50～80万トンの太陽光パネルが大量に排出されることが想定されています。太陽光パネルの大量廃棄時代に備えて、リサイクルの可能性についての最近の研究動向を紹介しします。	
66	これまでの都市とこれからの都市	人類史上、都市が誕生してから6000年あまりだといわれています。その中で、日本の都市は人類史上初めて急激な人口減少と高齢化が進んでいます。また、都市が地球環境に与える影響は非常に大きく、SDGsの観点からも将来にわたって持続して発展する都市が必要とされています。都市の6000年の歴史を振り返りながら、将来の都市のあり方を考えます。	長谷川 直樹
67	体温ってどの温度？	からだの調子が悪いとき、熱が出ることがあります。これを体温計で確かめると思いますが、皆さんは、どの温度を測りますか？ヒトのからだは、外の気温が変化しても体温は一定に保たれており、そのお陰で元気に過ごせるのです。からだの温度（体温）分布の特徴と体温の正しい計り方（体温計の使い方、注意点）を実際に測定して学びましょう。また、暑いところ、寒いところで、どのような工夫をして生活しているのかを衣服、住居、空調などの利用とヒトの体温調節反応との関係から考えてみましょう。	平林 由果
68	着心地・住み心地を科学する	寒い環境でも、暑い環境でも、衣服や住居を工夫することにより、快適な生活を送ることができます。日本は、冬は寒く、夏は蒸し暑く、さまざまに変化する気候の中で生活しなければなりません。そんな時、何を着たら快適に過ごせるでしょうか？快適に生活するための衣服の工夫、住まいの工夫を考えてみましょう。	

金城学院大学 2024出前授業

<p>69</p>	<p>インクルーシブデザインってなに？</p>	<p>上から見下ろしただけで目盛りを確認することができる計量カップを知っていますか？腕や指の力のない人にとっては、目の高さまで持ち上げるという動作は負担ですが、その必要がありません。これまで製品を使用できなかったユーザーを巻き込んでデザインする「インクルーシブデザイン」は、より多くの人に便利で快適なデザインを生み出します。身の回りにある様々な製品について一緒に考えてみましょう。</p>	<p>平林 由果</p>
<p>70</p>	<p>私たちが暮らす家やまちのデザインについて考えてみよう</p>	<p>皆さんは、服やアクセサリと同じように、私たちが暮らす家やまちだってデザインが重要だとは思いませんか？でも、私たちの身の回りにたつ建物はみんな無味乾燥なものばかりです。看板やネオンサインばかりが目立つような現状に我慢していて良いのでしょうか？家やまちのデザインは、私たちの文化に関わるだけではありません。魅力あるまちから、多くの魅力ある人が育つと言われることがあります。それが本当だとすると大変なことです。海外の建築や都市の例をみながら、私たちの家やまちのデザインはどうあるべきなのか一緒に考えてみたいと思います。</p>	<p>間瀬 正彦</p>
<p>71</p>	<p>インテリアをデザインする</p>	<p>私たちは毎日建物の中で、いろいろな事をして過ごしています。素敵な場所だとか、安らげる場所だなどと感じるのは、なぜでしょうか。人は様々な感覚を同時に使いインテリアを感じています。中でも視覚が与える影響は大きく、光や色の性質を知ることが重要です。この授業では、より充実した生活が送れる環境について学び、インテリアデザインについて一緒に考えます。</p>	<p>弓立 順子</p>

※ 授業は約50分を予定しています。

【お申込み・お問い合わせ】

金城学院大学 入試広報部

電話：0120-331791 e-mail：nyushi@kinjo-u.ac.jp



本学「受験生応援サイト」